

漢法苞徳塾資料	No. 232
区分	報告
タイトル	乳幼児突然死症候群（SIDS）の話題 NHK放送より 1991.05.02 1ch am、7.00 ヨリ放送 モーニング・ワイド 検証医療シリーズより
著者	八木素萌
作成日	1991.05.02

◎北里大学の神奈川県下の病院の研究室では1年の歳月をかけて、県下の病院や救急センター等の協力を得て、近年話題になっている「SIDS」について詳細な大掛かりな調査を行なった結果を発表した。

助教授の渡辺登氏は「乳幼児の死亡の中でもかなり高率な疾患である事がハッキリした、まだ原因が不明であるだけでは無い突然死であるだけに、早急に対応体制が全国的に確立される事が必要」と訴えている。

アメリカでは年間に7000人が死亡しており、日本では昨年も年間に700人が死亡している。渡辺助教授は「もっと大規模に詳細に調査すれば乳幼児の急死の内の頻度は、もっと高いものであると分かると思う、神奈川県下の昨年の乳幼児急死数39人の約60%の23人がSIDSであった、これは新生児3000人に1人の割合に相当している。

もっと調査すれば2500人に1人になると思う。これは乳幼児の死因ではかなりのものである。」という。これは昨年の久留米医大の研究の倍以上になっているが、死亡時の状況から肺炎などによる死亡と、まぎらわしいと認識されていた模様とも関連があるかも知れない、これは記者の推測である。

アメリカは国で「SIDS研究センター」が作られて、研究と対策とが進められているが、いまだに原因は不明である、脳の呼吸中枢に何らかの障害があるのかも知れないという説も出ているが、やはり原因は不明である。睡眠中の突然死が74.1%で、覚醒時を加算すると80%に近い。

以前から、この死亡は半年以前であると言われていたが、生後5ヶ月に極端に集中し、次のピークは1ケ年（12月）となっている。名古屋医大は呼吸監視モニター器具の貸出しを行なって母親の強い不安に対応している。